

令和3年度 沖縄県振興審議会第1回文化観光スポーツ部会 議事要旨

日時: 令和3年7月 19 日(月) 15:00～17:00

場所: 県庁1階第1・第2会議室

議題1【沖縄文化の保存・継承・創造と更なる発展】について

【與座博好委員】

○しまくとぅばという言葉には各地域の方言、各地域のという意味が含まれると考えるため、「各地域における」という文言は要らないのではないか。

[資料1:番号1]

【倉科委員】

○県民が独自の文化に誇りを持ち、継承していくためには、それら文化・芸術に県民が触れる機会を増やすだけでなく、県外(世界)からの評価を得るような視点・施策が必要ではないか。(外からの評価で県民が価値・誇りを再認識することが促進される)

[資料1:番号2]

【平田委員】

○社会的課題の解決において、文化の力が発揮できるような振興計画ができないか。特に近年、福祉や介護の世界と文化の融合がかなり重要視されていると感じる。

福祉や子どもの貧困関係の課題、あるいは高齢者の皆さんの芸能活動を通じた生き生き頑張っている姿など、社会的な課題にもっと連携できるような包括的な振興計画を検討して頂きたい。

[資料1:番号3]

【小島委員】

○エイサーと比較して、沖縄空手の学校での普及率は低いので、学校にも協力をお願いして空手の普及ができればよいと思う。また、海外の学校から空手の交流をしたいという希望もあるので、海外との交流という点でも空手には可能性がある。

[資料1:番号4]

【東委員】

○空手に関して学校教育の中で取り入れている校数とかを目標にしているのか。義務教育課程から高等学校とかも含めて、空手着着用を必須とせず体操着でもよいとするなど、ハードルを下げて学校教育の中で受け入れられるようにしていく必要があるのではないかと思います。

[資料1:番号5]

【前田委員】

○空手の普及も小学校のときに全員させたらどうか。小学校のときに空手の型(かた)は体育または運動会で必ず習うものとし、空手のこの型(かた)はしっかりできるというのがあるといいなと思っています。

[資料1:番号6]

【富田委員】

○多くの方にしまくとぅばに興味を持ってもらって学ぶ機会を創出するという意味でも、具体的な指標が必要ではないか。

[資料2:番号1]

【東委員】

○しまくとぅばは沖縄のことだけなので、記憶遺産として残せると思う。ユネスコが絶滅するおそれがあるという勧告を出しているのだから、まず記憶遺産に登録していくことを成果指標としてもいいと思う。

[資料2:番号2]

【富田委員】

○沖縄の文化芸術は、実演をするプレイヤーはたくさんいても、それをマネジメントする人材の不足が長年の課題になっているので、文化芸術そのものだけでなく、それを支える取組、仕組みづくり、プラットフォームづくり、人材育成などが十分に反映された指標をお願いしたい。

[資料2:番号3]

【ダルーズ委員】

○沖縄空手を支える道場や関係団体の運営基盤の強化に関して、沖縄空手を支える道場や関係団体の運営基盤の強化に関して、成果指標は道場の門下生数だけでいいのか疑問である。

[資料2:番号4]

【石原委員】

○1-(4)-ウの各成果指標について、数値で示すことが必要

[資料2:番号5、6、7、9]

【石原委員】

○「沖縄空手の保存、継承、発展」には、指導者だけでなく、空手の知識があり、かつ企画・運営などの事業ができる人材育成も必要と考える。

[資料2:番号5]

【石原委員】

○成果指標「県外における「空手発祥の地・沖縄」の認知率」について、認知率には県内の空手関係者以外の理解度を図ることも必要だと思われる

[資料2:番号6]

【ダルーズ委員】

○もともと空手関係のイベントはほとんどなく、一般県民はあまり見に行かないため、沖縄空手のイベントの数を増やすことが重要と考える。

[資料2:番号10]

【東委員】

○これから生かしていくしまくとぅばの中で、男性がハイサイで、女性がハイタイでいいのか。生きたしまくとぅばを今後若い世代に教えていく中において、SDGsが掲げるジェンダー平等とどういう整理をされているのか。

[資料3:番号1]

【石原委員】

○1-(4)-ウを達成するためには①から③までをしっかりと関連させ、沖縄空手会館をハブにさまざまな展開ができると県内外(国外からも)からアクセスしやすい状況がうまれると思われる。

[資料3:番号5]

【倉科委員】

○当方(JICA沖縄)では途上国の日系人・日系社会に関わる方に対する沖縄空手の研修を実施(通常は訪日研修)。また、指導者の海外派遣についても海外協力隊事業などで連携が可能である。

[資料3:番号6]

【ダルーズ委員】

○武道ツーリズム、空手ツーリズムは、今後相当期待できる分野であると考えており、企業をはじめいろいろな人が関われるような空手界をつくり上げないといけないという気がします。今は関係者だけが関わっているので、運営基盤の強化が重要ではないかと考えます。

[資料3:番号8]

【下地部会長】

○文化庁では文化観光推進法を制定し、それに基づく文化施設を拠点とした観光の在り方について、全国で話が進められているようだが、沖縄には拠点が1カ所もない状況である。改めてそういう法律の確認もお願いしたい。

[資料3:番号9]

【平田委員】

○成果指標に関する制度については、例えば文化なら文化の関係団体の方、あるいは国に関係するNPOとかが成果指標に対してどのようなことをやっているのかを参考にするような、意見を聞くような工夫をされて、成果指標を改めて設定したほうがいいのではないかな。

[資料4:番号1]

【倉科委員】

○成果指標(しまくとぅばを挨拶程度以上話す人の割合)の妥当性について確認したい。(成果指標は先の振興計画と同様で、先の振興計画では82%が目標でした。この先の10年でどこまで求めるのか、そもそも100%近くを求めることが妥当なのか疑問に思ったため)

[資料4:番号2]

議題2【悠久の歴史や伝統文化に育まれた魅力ある空間と風土の形成】について

【ダルーズ委員】

○空手は、沖縄県にとって重要な文化財であり、世界で沖縄の一番知られている文化財であるため、49ページ15行目「さらに、組踊やエイサーなど琉球文化の」を「さらに、組踊、空手やエイサーなど琉球文化の」に修正。

[資料1:番号7]

【ダルーズ委員】

○組踊や舞踊と共に、空手は芸術の面でもキラーコンテンツである。さらに、県が空手のユネスコ登録を目指すことから、琉球文化である空手をしっかり位置づけることを目指すため、51ページ11行目「組踊や県内各地の伝統芸能の鑑賞など」を「組踊、空手や県内各地の伝統芸能の鑑賞など」に修正。

[資料1:番号8]

【原田委員】

○空手の国際大会を通じた国際交流は非常に重要だが、本当に行き来できるようになるまで数年かかる可能性があるため、オンラインで師範から稽古を受けるようなオンラインイベントの仕組みを考えて、成果指標はアクセスの数で測っていくような施策展開も必要ではないか。

[資料2:番号8]

【原田委員】

○武道というのは愛好者もいればライト層もいるため、道場を巡り、道場が持っている非常にいいコンテンツを伝えていくようなライト層向けのツアーパッケージも今後必要であると考えます。

[資料3:番号7]

以 上